

現在、コロナウィルス対策として各教科の学習の順番を、教科書に書いてある内容と入れ替えて授業を行っています。理科の学習では、理科室の使用ができるようになり、「物の燃焼」の学習に入りました。

授業の始めに、「火の付いたろうそくに蓋のしてあるペットボトルをかぶせるとろうそくの火が消える」という現象を、子供たちに見せ、「ろうそくを燃やし続けるためには、どんな条件が必要か」を予想しました。多くの子供たちは、「空気が必要なのではないか」と考え、ペットボトルの蓋を外してみましたが、また火が消えてしまいます。

そこで、①線香を使って空気の動きを見る②ペットボトルの穴の大きさや数を変える③粘土の量を変える等の条件を変えて実験を行いました。

様々な実験方法が、子供たちから出ました。「穴をたくさん開けてみる」「かまどのような形にペットボトルを変える」「粘土を小さくして、下に空気の通り道を作る」などなど。子供たちは、線香の煙の動きから、「火が燃え続ける時は、中の空気が出たり入ったりする」「空気の通り道が必要」ということに気づきました。

他にも、「物が燃えるためには、何の気体が必要か」「物が燃える前後で気体に何か変化は起きているのか」など、出てきた疑問を元に、新しい実験を行っています。

火を扱う実験であること、また気体検知管や石灰水などの扱いに注意が必要な器具を使うことから、細心の周囲を払って実験を進めていきます。

